

公教育に入り込む親イスラエル・プロパガンダ

マーシー・ウィノグラド（元高校教師で、「平和を求めるユダヤ人の声」の一員）著、脇浜義明訳、田中一弘補訳
Counter Punch、2024年12月23日 *脚注は訳注



2023年11月15日「平和のためのユダヤの声」が、イスラエルのガザ虐殺に抗議しハリウッド大通りを封鎖した。

1913年に反ユダヤ主義と差別に対して闘うために設立された「名誉棄損防止同盟」(ADL)は、現在、時には市民運動団体、時には親イスラエル・プロパガンダ機関として活動するロビー団体など、神話に登場する自在に姿を変える妖怪となっている。

ADLは小学校と中学校など公教育の場に「ヘイト差別をなくす」(No Place for Hate)プログラムを導入した。ホール、食堂、読書室などヘイトが現われそうな場所でヘイトが起きないようにし、多様性を尊重する寸劇やゲームや講演会を通じて、生徒、教員、親を「偏見やいじめに立ち向かう」力を与えることを目的とした教育プログラムで、それ自体は問題ではない。

北欧神話にロキという嫉妬深い神がいた。ロキは鮭や老婆に姿を変える変幻自在な神（暗闇の神）である。ロキはヤドリギで弓矢を作り、盲目の神ホルドを騙して、ホルドの双子の兄で光の神バルドルに矢を放させた。

ADLは鮭や老婆に変幻しないが、社会正義運動やアラブ人団体を監視し中傷するずる賢い政治的陰謀機関ではないか、という疑惑がある。そういうADLの反社会的悪評があるにもかかわらず、ADLのウェブサイトによると、現在2000校の学校、19万人の教員と180万人の生徒に「ヘイト差別をなくす」プログラムで教育している。

50万人以上の生徒を擁するロサンゼルス統一学区(LAUSD)には、現在と過去に、ルーズベルト高等学校、アメリカ・イアーハート中学校、ベンジャミン・フランクリン小学校、マーク・トウェイン小学校などの有名校がこのプログラムの対象校に含まれていた。LAUSDの公民権事務局は、「教師用指導資料」(Tools for Educators)の配布によってADL党繋がっている。その「教師用指導資料」には、パレスチナに味方をする米国のムスリムを「米国内の反イスラエル・反シオニズム運動の中核」として攻撃する論文がある。2022年LAUSD理事会の一理事であっ

たスコット・シュメレルソンが理事長になって、学区の教育長に ADL の勧告に従ってカリキュラムの刷新を行えと指示する決定をした。

建前として、学校に異なるコミュニティの価値観の尊重を促進する活動を行うことを説得しながら、ADL（神話の変幻自在な妖怪に似て）は、歴史的パレスチナの地にイスラエルがユダヤ人だけの国として存続する権利を疑問視する議論をさせないよう画策している。

スケープゴートについての「ヘイト差別をなくす」授業テキストの中で、ADL は「イスラエル国の存在に関する議論、イスラエルを悪魔化する議論を教室で行うことは、ユダヤ人生徒にとって危険な状況を作り出し、すべての生徒の批判的思考を封じ込める働きをする」と書いている。注意すべきは、民族国家政治的イデオロギーに関する議論をその国家の成員の悪魔化とごちゃ混ぜにして、生徒の批判的分析や評価を妨げていることである。

このような言論抑圧、特定民族至上主義に基づく植民地主義、先住民を虐殺・追放する民族浄化を議論することを禁じることに従う学校は、北欧神話の盲目の神と同じように、兄に矢を放つ行為をしているのだ。プロパガンダの矢で教育活動の心臓部を射貫いて、携帯電話でライブ配信されるガザ状況を見て「何故？」と疑問を抱く生徒の探求心を殺すのである。

日本の神話には九尾の狐という妖怪が人間に化けて上流社会に侵入する話がある。狐の妖怪は妖艶な女性に化けて何も知らない高貴な男性に死を招く呪い — 怪我や火傷 — をかける。もし高貴な男性にもっと観察眼があったなら、妖艶な女性の着物の背後に毛深い狐の尻尾が突き出ているのを見破ったであろう。そう、妖怪が騙そうとしている人が注意深く、背後の真実を見抜こうとするならば、妖怪の正体が暴かれるのだ。

パッケージ化されたカリキュラムの誘惑

ADL は偏見を排除する名目の「ヘイト差別をなくす」プログラム、教育行政、教員、親が「相互尊敬と平等を目標として、すべての生徒がのびのびと成長できる包括的で安全なコミュニティ」を作るのを援助するという名目のプログラムで誘惑する。このような売り口上に逆らうのは困難である。とくにそれが横断幕、バッチ、風船、プレスレットなどの賑やかな小道具を伴って導入される場合は、それらは、自己を語る詩（“I Am” poems）、仲間同士の会話、学校調査、にこにこ微笑む多人種生徒のコラージュなどを通して一步一步コミュニティ作りすることを解説する立派なパッケージの一部である。しかし、それはあくまで表面的建前で、もっと深く分析することが必要である。まず基本的なことから分析を始めよう。

学校の資格取得 — 登録

「ヘイト差別をなくす」プログラム校になるためには ADL に登録しなければならない。ADL の厳しい調査を心配する学校にとっては厄介な問題である。2020年の ADL 内部メモを報道したガーディアン紙によると、イスラエル軍による米国警察官の訓練を暴露した「恐るべき交流」反対運動（Deadly Exchange Campaign）¹に関わったインディアナポリスの黒人活動家学生を ADL が調査し、学生が在学する学校を登録させなかった。記者の取材に対し当の学生は「すっかりビビりました。だって周囲の人々に迷惑をかけたくなかったので、反対運動へ行かないようになりました」と語った。数十年も昔、1990年代、警察は ADL が「数千人の活動を不法に監視しているという非難を取り上げて ADL を捜査した」と、ワシントンポスト紙が報じた。ADL は監視行為を否定した。ワシントンポスト紙によると、サンフランシスコ警察は ADL 事務所から「警察の極秘報告のリーク・コピーや、指紋カードのコピーや、運転免許写真や、警察の記録から抽出された逮捕歴のコピーなど、警察資料を押収した」という。

次は委員会と誓約

ADL への登録がすむと、学校は理想的コミュニティ作りとあらゆる形の偏見と闘うことを指導する教員と生徒から成る運営委員会を設立しなければならない。委員会の任務はいじめや人種差別の被害者生徒の問題に重点的に取り組むことだという文言はなく、生徒、教員、保護者を学校としての誓約書に署名するように説得するのが委員会の役割とされる。

¹ 「平和を求めるユダヤ人の声」が開始した政治運動。

小学校における誓約書は「私は誰に対しても、たとえ自分と違う人種の人に対しても、優しくするようにすることを誓います」とあり、中学校ではもっと積極的で、「私はヘイト差別の対象となっている人々を支援するために動きます」とある。

全校生徒が誓約書に署名することが期待されており、誓約書には「ヘイト差別をなくす」ADL 教育プログラムというロゴ・マークが目立つように大きくついている。誓約書の言葉そのものは当たり障りがないが、ADL を宣伝することで、社会運動敵視、公教育への不満、イスラエルの無条件支持などの経歴を持つ団体を持ち上げて仲間になっているので、それが教員らを躊躇させている。このイスラエル擁護は、特に2024年1月26日に国際司法裁判所がイスラエルがジェノサイド犯罪を行っている可能性があるとして予備判決を下し、2024年12月5日にアムネスティ・インターナショナルが「まるで人間以下の存在と感じさせる、イスラエルのガザ地区のパレスチナ人に対する大量虐殺」(You Feel Like You Are Subhuman: Israel's Genocide Against Palestinians in Gaza) と報告を出してから、いっそう強くなった。

誓約書文言には問題がないと言ったが、学校をADL 教育プログラムに参加させるために、生徒、教師、親に全員署名署名させるのは、教育現場に強制を持ち込むという別な問題となる。

許可されるのはADLが認める活動だけ

生徒と教員がADL 誓約書に署名した後、学校が「ヘイト差別をなくす」ADL プログラム登録校として要求される次の基準へ進む。各学校はADL が認める3つの活動を実行しなければならない。アイデンティティに関するディスカッションとリスニングジャーナル(被害者の語りを聴くこと)とヘイト差別反対デモに参加することである。

中学校と高等学校に関して、学校全体の行動へ結びつく活動の一つとして推薦されているのは「反ユダヤ主義事例：同調者、提唱者、活動家」と題する授業計画である。そこでは、イスラエルに関する神話を信じてユダヤ人を除け者にするのは反ユダヤ主義であるということを、生徒に認識させるのだ。イスラエル非難とユダヤ人差別とを同じ扱いにする困惑させる定義に基づいた授業計画である。

この授業で教材になるのは、ADL のウェブサイト「2022年反ユダヤ主義事例の審査」(Audit of Antisemitic Incidents 2022) である。その審査には「米国大学で起きた反ユダヤ主義事件219件のうちの19%がイスラエルとシオニズムに関連したものだ」という文言がある。審査の中には「反イスラエル/反シオニズム関連」という章があり、そこでは「平和の証人」²や「パレスチナの正義のための学生会」(SJP) の活動家が反ユダヤ主義の実行犯だとして、これらの組織を中傷した。「これらの組織がシオニズムに反対する声明を発表するが、それは往々にして反ユダヤ主義的で、我々がその声明がユダヤ人あるいはユダヤ人と分かる地域グループに悪影響を与えると判断した場合、それを反ユダヤ主義の事例として審査に入れた」とADL が書いている。

ADLはイスラエル批判は反ユダヤ主義で、ユダヤ人を傷つけ怒らせると、本気で思っているのだろうか？ 全米の都市でイスラエルとイスラエルに武器提供する米国政府を非難するデモをやっているユダヤ人はどうなるのだ？ 国会議事堂で座り込みをやって抗議するユダヤ人、「ガザ停戦を！」「イスラエルに武器提供するな！」「ユダヤの名を使うな」と書いたTシャツを着て地下鉄の駅を占拠しているユダヤ人はどうなるのだ？ これらのユダヤ人はイスラエルのパレスチナ民族浄化に怒っているのだ。彼らは激怒しているのだ。

私が属する「平和を求めるユダヤ人の声」は急成長している反シオニズム全国組織で、ADL は反ユダヤ主義とイスラエル国批判とを合成するので、「反ユダヤ主義や差別についての信頼できる情報源ではない」とはっきり断定している。「ADL が攻撃するのは差別者ではなく、パレスチナ人に人権擁護活動を行う活動家や言説で、現在イスラエルがガザで行なっているジェノサイドとパレスチナ人を差別・抑圧する政策を批判する言論行為を制圧する共同的・組織的キャンペーンを行っている」と述べている。

ADL はオクシデンタル・カレッジ、ポモナ・カレッジ、そしてフィラデルフィアとサンタ・アナとバークレーの学区に対する公民権に関する苦情申告を教育省に行った。バークレーへの苦情申告は、学生がイスラエルと米国に抗議して、「ヨルダン川から地中海までの地でパレスチナ人は自由になる」と叫びながら教室から出て行ったことについてである。この学生たちの詠唱文言の中にはパレスチナの地からユダヤ人を追放せよという文句はなく、郷土から追放されたパレスチナ人の帰還権を支持する言葉だけであった。

² もともとはレーガンのニカラグア右翼支援に反対して設立された草の根組織。

さらに、「ヘイト差別をなくす」プログラムで生徒たちにやさしく思いやりを持ち、いじめをしてはならないと教える ADL は、ほぼ200の大学の学長に、ガザ虐殺でイスラエルに非暴力抗議する「パレスチナの正義のための学生会」の学生を調査して処分せよという脅迫的文書を送った。

危険な状況

学校が偏見やいじめに対処する独自の取り組みをするときは、ADL の許可を得なければならない。ADL の許可がない取り組みは正式な「ヘイト差別をなくす」プログラムの実績にはならない。しかし、偏見をなくす教育活動を民間の政治的主張団体、特に選挙資金やロビー活動を調査して公表する非営利団体「オープンシークレット」のウェブサイトによれば、2024年に100万ドル以上使って議員に親イスラエル法案を成立させるようにロビー活動を行ったADLに教育活動を委任することを恥ずかしく思うのは、なにも公教育擁護活動家でなくてもよい。

国際ホロコースト記念連盟が「反ユダヤ主義」の新定義を打ち出して世論を騒がせたが、それはADLの圧力によるものであった。イスラエル批判自体が反ユダヤ主義だという無茶苦茶な新定義である。このため、ユダヤ人に対する差別発言ではなく、憲法で保護される自由な政治的発言が「反ユダヤ主義」とされ、大学に対する訴訟で法廷を賑わす危機的状況となっている。

ADL 経由の学校から刑務所へのパイプライン

ADL の「ヘイト差別をなくす」プログラムには、先生を手伝って答案を配るとか他の生徒のために飲料噴水の蛇口をしっかり閉めるなどの単純な親切で優しい行為とは対照的な概念としてソーシャル・ジャスティスに関する授業がある。ADLはソーシャル・ジャスティス行為を、銃暴力問題やホームレス問題やいわゆる「学校から刑務所パイプライン」問題などの解決を目指す「制度的変革」を組織的に行うことと、うまく定義づけている。

そのくせADLは、問題が発生したら学生と教員から成る運営委員会に連絡して、そこで修復的司法という教育的的手法、ロールプレーや議論を通じて共感を成立させて問題解決を目指すのではなく、差別事例報告書を作成してADLに報告し、場合によっては警察に通報することを奨励しているのである³。「学校管理者に対する最良の実践モデル — 素早い対応」という小見出しのADLカリキュラムは、「学校に駐在する警官など生徒指導協力者の義務と役割を明確にし、警察導入に関する規定も明確にし、必要に応じて警察に通報せよ」と学校長に勧告している。ADLの建前と実態の矛盾の一例である。

ADLと警察との協力関係は密接なので、学校教育にADLに関与させると、生徒指導を教育的観点で行うよりは、警察に依存して処罰の手法が強くなることを、考慮しなければならない。ADLが建前上批判する「学校から刑務所パイプライン」を強化することになるのだ。

警察のことは脇へ置いて論を進める。差別事例 — その中にはイスラエル批判事例も含まれる — をADLに報告すると、やがて、仮に学校管理者がADLが奨励する対処方法に通りに行動しなかった場合、法的問題になるかもしれない。さらに、ADLの「ヘイト差別をなくす」プログラムというソーシャル・ジャスティスの言葉遣いにも関わらず、ガザのジェノサイドを非難して学校全体がイスラエルの武器供与をやめよと議会へ手紙を書く運動をやったり、あるいは占領地西岸地区にユダヤ人占有道路を建設する企業から投資を引き揚げよと教育委員会に提言するようなことをやることを、ADLが許可するはずがない。「ヘイト差別をなくす」プログラムの巻末の用語集は反ユダヤ主義を「ユダヤ人、ユダヤ教、イスラエルに関する固定観念や誤った通念を信じ込んで、ユダヤ人を疎外し抑圧すること」と規定している。反ユダヤ主義は現実存在する — シャーロットビルの白人至上主義⁴、ツリー・オブ・ライフ・シナゴグ虐殺事件⁵、1・6議会襲撃の時のナチの旗印⁶ — が、反ユダヤ主義にイスラエル批判を

³ 「修復的司法」は、犯罪を警察や裁判で処罰する方法でなく、被害者、加害者、地域社会が話し合いで問題解決を図る手法で、アボリション運動が奨励している。

⁴ 2017年8月11～12日シャーロットビルで極右、ネオナチ、ネオ南部連合支持者、ファシスト、白人至上主義者、KKK団員の集会とデモがあった。

⁵ 2018年10月27日、ピッツバーグのユダヤ教シナゴグを反ユダヤ主義者が襲撃し、11人を殺害した。

⁶ 2021年1月6日トランプの選挙敗北を受けて右翼暴徒がナチの旗印を掲げて議会へなだれ込んだ。トランプのクーデターと言われたが、単なる暴徒事件として片づけられた。

含める新解釈は、混乱を招くだけでなく、イスラエルが罰を受けず、責任も取らずに暴挙を続けることを許すことになる。

ヘイト・ピラミッド

ADLの「ヘイト差別をなくす」プログラムはヘイト・ピラミッドを生徒に提示して、増加する差別・偏見を見抜いて議論することを奨励する。ピラミッドの底辺は固定観念としての偏見を持つ態度。その上がいじめなど偏見に基づく行動。そのうえが差別。最上層にあるのは気に入らない民族を徹底的に絶滅させようとするジェノサイドである。

プログラムのカリキュラムは2023年10月7日以後に更新されたのだが、イスラエルによる200万人のガザ住民を封鎖して攻撃し餓死に追い込んでいる行為にはまったく触れていないし、そういうイスラエルの行為を文字通りジェノサイドだと世界の多くの研究者や知識人が言っていることにも触れていない。人種差別的なジョークに反対せよと生徒に奨めているのに、ガザで数十万人の人を殺傷（そのうち数万人が子ども）するイスラエルの人種差別的な暴力に抗議することを奨励しない、むしろ禁止する。危機管理コミュニティ・トレーニング・センター（CTCCM）による2024年の調査は、「ガザの子どもの96%が自分がもうすぐ死ぬことを覚悟しており、こんな生活より死んだ方がよいと答えた子どもは49%」という結果だった。

「学校からADLを排除しよう」運動 — 89団体が支援・応援している — が教育者へ向けて発表した公開書簡は、「ADLは、イスラエル批判やシオニズムの政治イデオロギーに対する批判は憲法で認められた言論の自由であるのに、それを行ったり行うことを是認する学校や教員や学生にユダヤ人差別者という悪意あるレッテルを張り、沈黙させ、沈黙しない者を処罰している」と書いた。この運動は「ヘイト差別をなくす」カリキュラムの使用を止め、ADLとの関係を断つことを教育者に求めている。また、女性の平和運動コードピンクの活動家たちは、カリフォルニア州のセントラルコーストの教育委員会前で演説集会を開き、教育委員にADLを学校から追い出すことを要求した。

結論

「ヘイト差別をなくす」プログラムの「政治的正義」ジェスチュア — 例えばsheとheの代名詞が象徴するジェンダー・バイナリーではなく、ノン・バイナリーの尊重の主張 — にも関わらず、学校授業の外では「ヘイト差別をなくす」プログラムは変幻自在な神話の妖怪となり、学区を偏見を摘発して処罰する機関にし、行政や司法当局を名誉棄損防止同盟の手足にするのだ。確かに「ヘイト差別をなくす」プログラムは廊下いっばいに反差別標語の旗を掲げ、誓約、やるべきことのリスト、時には賢明な助言を提供してくれる。しかし、その美しい装いの箱を開けると、たちまち醜い親イスラエル洗脳が見える。

オルタナティブ — 内部の力

学校管理職にとって、あらかじめ準備されたカリキュラムの無料提供は魅力的であるが、人種差別やいじめや偏見に対処できる、どんな場合にも通用する万能薬はない。差別やいじめや偏見は、米国社会の構造的な人種差別、隔離、実質的カースト制、経済的不平等、黒人や貧民に対する選挙投票の制限の結果として学校教育の場にも染み込んでくるものだ。しかし、その是正は下からの活動で行うべきだ。批判的思考をする人、正しい信念を持った人、生涯学び続ける人から成るスクール・コミュニティを創りあげることだ。

スクール・コミュニティ作りへの参考として、1943年に設立された教育非営利団体の管理及びカリキュラム開発協会（ASCD）から引用する。

「強いコミュニティ感覚をもった学校の生徒は勉強熱心になる⁷、倫理的で利他的に行動する、社会的で共感的能力を発展させる、薬物利用とか暴力などの問題行動を避ける。」

だから、学校はトップダウン型の処方箋のためにADLの支配下に入るよりは、学校全体の公共サービス・プロジェクト、生徒の人種的多様性を反映させた文化活動、抑圧や植民地主義へのレジスタンスを称える文化的行事な

⁷ 以下では文献著者名を省略する

どを通じて、主体的にコミュニティ作りを行うことができる。先生は授業の中で、本や物語を使って人種、偏見、いじめの問題を取り上げて、創造的な議論を作り出すことができる。

最終的には・・・

教育者は、「ヘイト差別をなくす」プログラムのような政治団体の無料プログラムの利用がどのような代償を支払うことになるかを、しっかり考えるべきである。無料プログラムのスポンサーは反シオニズムを反ユダヤ主義とごちゃ混ぜにし、それに不服を表明する学校に対する公民権に関する苦情を教育省に提出し、教室内に親イスラエル・プロパガンダを持ち込む。良い学校風土作りは ADL のような政治組織に依存しなくても、学校内部に、学校と地域社会の関係の中で開発できる。

マーシー・ウイノグラードは、ロサンゼルス統一学区で英語と社会科を教えていた元公立高校教師でリテラシーコーチです。彼女はまた、コードピンク会議のコーディネーターであり、*Jewish Voice for Peace* のメンバーであり、カリフォルニア州サンタバーバラを拠点とするセントラルコースト反戦連合の共同議長でもある。

**ALL DONATIONS
\$25+
QUALIFY**

**SURPRISE MATCHING GRANT
FROM GENEROUS DONOR**

**HELP US RAISE \$6,000
BEFORE THE END OF THE YEAR**

**YEAR
END
DRIVE**

**COUNTER
PUNCH**

**COUNTERPUNCH
NO ADS. NO CLICKBAIT.
NO COMPROMISE.**